

論文名 歯科保健医療のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に資する疫学研究

名前 松山祐輔

所属 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成は持続可能な開発目標(SDGs)のターゲットのひとつに位置づけられており重要であり、学術誌での論文や総説も多く出されている。歯科疾患は有病率が高いため社会全体での医療費負担も大きく、世界の保健医療支出の4.6%を歯科医療費が占める(1)。それにも関わらず、口腔保健はこれまで国際保健のなかで軽視されてきた歴史があり、UHCの達成も遅れている(2)。UHC達成にむけた近年の国際的な機運の高まりは、歯科保健医療をプライマリ・ケアの枠組みに組み込むまたとない機会であり、それを後押しする研究が世界的に求められている(3)。

このような国際的な流れの中で、歯科を含む国民皆保険を半世紀以上前に確立した日本が社会的および研究上果たす役割は大きいと考えらる。日本の国民皆保険制度は国際的に非常に高い評価を受けている(4)。歯科保健医療についても、日本はOECD各国の中でも低い自己負担割合で基本的な歯科医療を受けることができ、歯科受診頻度も突出して高い(5)。優れた歯科UHCが達成されていることは日本の長所である。

しかし、著名な国際学術誌であるLancetで日本のUHCの特集号が組まれた際には、歯科に関わる記述はなかった(6)。Lancetで歯科のUHCが議論された際にも、日本の記述はなかった(3)。歯科UHCに関する国際論文が飛躍的に増加しているにもかかわらず、日本からの論文が少なく、国際社会にアピールできていないことがその理由として考えられる(図)。歯科UHCの健康保護効果を明らかにした国際比較研究(7)や、UHCを達成してもなお残りうる受診抑制(8, 9)や健康格差(10)の問題を明らかにした研究が、歯科分野のトップジャーナルのひとつであるJournal of Dental Researchなどの国際誌に受理されている。そのような研究を推進することが、歯科学術界において日本のプレゼンスを高めるために必要であろう。国際的な文脈と、その中での日本の状況を理解した研究により、日本が歯科分野のUHC研究で国際社会をけん引していける可能性が存在する。

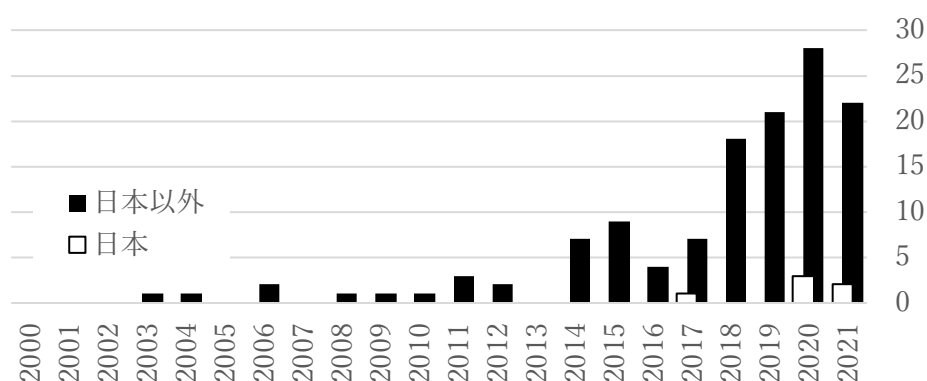


図. 歯科UHCに関係した国際論文出版数
(2021/9/28日時点、PubMedによる)

利益相反
なし

参考文献

文献

- [1] Righolt JA, et al. J Dent Res. 97(5):501–507. 2018 (IF:6. 12, 被引用数 72)
- [2] Wang TT, et al. Bull. World Health Organ. 98(10):719–721. 2020 (IF:9. 41, 被引用数 6)
- [3] Watt RG, et al. Lancet. 394(10194):261–272. 2019 (IF:79. 32, 被引用数 87)
- [4] Lozano R, et al. Lancet. 396(10258):1250–1284. 2020 (IF:79. 32, 被引用数 48)
- [5] Aida J, et al. Int Dent J. 71(6):454–457. 2021 (IF:2. 51, 被引用数 2)
- [6] Reich RM, et al. Lancet. 378(9796):1051–1053. 2011 (IF:79. 32, 被引用数 12)
- [7] Ito K, et al. Int J Environ Res Public Health. 17(15):5539. 2020 (IF:3. 39, 被引用数 2)
- [8] Cooray U, et al. J Dent Res. 99(12):1356–1362. 2020 (IF:6. 12, 被引用数 2)
- [9] Matsuyama Y, et al. Tohoku J Exp Med. 244(2):163–173. 2018 (IF:1. 85, 被引用数 1)
- [10] Matsuyama Y, et al. Community Dent Oral Epidemiol. 42(2):122–128. 2014 (IF:3. 38, 被引用数 19)